



区政区議会報告・地域情報を週刊で発行しています。ご意見をお寄せください。

日本共産党荒川区議会議員 斉藤くに子 区政ニュース

メール: arajcp@cn-catv.ne.jp 区議会 http://www.jcp-arakawakugidan.jp/ →
くに子ブログ http://s-kumiko.jugen.jp/



2024年11月3日 No.1365

区役所直通 3802-4627

fax 3806-9246



★無料法律・生活相談会★

弁護士の定例相談は第四月曜日

11月25日(月) 18時～

★北千住法律事務所での直接の相談予約も取ります。

★生活相談は随時随時に対応します。ご連絡ください。

荒川区荒川7-37-1(コミバス花の木停留所前)

Tel/Fax 3806-5134

定例法律相談は予約制として密の状況をつくらないようにしたいと思います。

宜しくお願い致します。

①18:00～18:30

②18:40～19:10

③19:20～20:00

事前にご連絡ください。

衆議院選挙の結果

23区で今回投票率が最も高かったのは、文京区の64.27%、最も低かったのは足立区の50.46%。

10月27日(日)投票で行われた衆議院解散総選挙。荒川区内の投票率は比例代表で56.25%

(前回56.03%) 小選挙区で56.26% (同56.03%) となり、前回に比べ若干投票率は上昇しました。

結果は右表のとおりです。

自民公明党は「与党過半数割れ」となり、裏金問題で、厳しい国民の審判が下りました。

決定的な役割を果たしたのは、自民党の政治資金パーティーによる裏金づくりを暴露し、さらに選挙の最中に、裏金非公認議員にたいする政党助成金からの2千万円の支給をスクープした「しんぶん赤旗」と国会論戦でした。

しかし、日本共産党比例で議席でも得票でも後退する悔しい結果となり、ガックリしています。

有権者の心に届く、国政選挙での訴え方、運動のやり方を考えなければと思います。

小選挙区

	荒川区	東京29区
鈴木けんいち	9,029	17,325
岡本みつなり	27,730	60,100
木村たけつか	26,829	47,996
たるい良和	16,786	31,367
えびさわ由紀	12,902	24,107
合計	93,276	180,895

比例代表・東京ブロック

	荒川区	議席	東京都
日本共産党	8,634	1	498,565
自民党	22,326	5	1,498,632
立憲民主党	16,377	5	1,298,166
国民民主党	14,657	3	945,460
公明党	10,843	2	573,191
日本維新の会	8,051	2	516,610
れいわ新選組	6,348	1	451,865
日本保守党	3,417		201,770
参政党	2,997		237,271
社会民主党	1,182		96,302
その他	315		23,784
	95,147	19	6,341,616

荒川区長選挙・荒川区議会議員補欠選挙は11月10日投票

これまでの区長選投票率

2020年 11月 8日	31.85%
2016年 11月 6日	30.44%
2012年 11月11日	31.66%
2008年 11月 9日	34.98%
2004年 11月14日	43.72%

11月3日告示、10日投票で区長・区議補欠選挙があります。

学用品の無償化・地域コミュニティバス移動支援・公設銭湯の検討・民間委託ストップ・公契約条例の制定など区民要望実現をどうすすめるのか問われます。

前回2020年の区長選投票率は31.85%でした。身近な基礎自治体の首長を選ぶ選挙です。荒川区民のみなさん、投票へ行きましょう。

庁舎の改修工事

現在、本庁舎の空気調和機取替、空調ドレン管改修、東面一部外壁改修を実施しています。

工事で北側スロープ上の来庁者用駐輪場(駐車場ゲート横:自転車・バイク共用)とスロープ下の来庁者用・職員用駐輪場の一部が使用不可となっています。



工事は来年の2月28日までの予定です。来庁の皆さまにはご不便をおかけしていますがよろしくお願いいたします。

昨年の6月26日の本会議で「移動投票所」について質問



荒川区は有権者比率で投票所が多いようですが、荒川8丁目付近は一中までの投票所は遠い、期日前の区役所は表も裏もスロープがきつくて、高齢者・障害者は行かれないと言われています。

長野県中野市は、動く投票所のバスを作って期日前投票を行っています。

栃木県下野市では、期日前投票まで投票所までの送迎バスを運行、また愛媛県東温市では、2019年から全員を対象にタクシーの移動支援を、兵庫県南あわじ市は、2022年から身体(障害者)手帳や介護認定者などタクシー無料送迎を行っています。

荒川区でも移動投票所や投票の移動支援の検討を行うこと～を求めました。

投票率アップのための取組みは選挙管理委員会の重要な任務の一つです。ぜひ検討して欲しいものです。

プラごみの回収・資源化 2025年10月～

区内全域でのプラスチックごみ分別回収が、来年10月から始まります。年々深刻な猛暑や豪雨被害など気候危機対策に、身近なCO₂削減が必要です。また、マイクロプラスチックの海洋汚染や人体への影響も懸念されています。

「プラごみの日」を新たに設定し、回収は週に1回、可燃ごみと分けるため「プラスチックごみ回収日」が新設されます（曜日は地域によって異なる）。

回収するプラスチックは、卵パックや弁当等の容器、飲食品の袋やラベルなど「プラマークが付いているもの」と、ハンガーやおもちゃなど「プラマークはないがプラスチックのみで出来ているもの」。食品の容器は汚れていても洗えば回収可能です。詳細は今後開かれる住民説明会や、区ホームページでお知らせします。不明な点、心配事などありましたらご相談ください。

★ 来年10月から「プラごみの日」を新設
★ 回収するものは…

プラマーク付き 	 ・洗剤などの容器  ・お菓子や食品の袋  ・弁当などの容器 など
プラマークはないが、プラスチックのみでできている	 ・ハンガー  ・おもちゃ  ・発泡スチロール など

モデル事業実施中

区内全域での実施に先立ち、2022年3月から町屋地域の一部（約1,200世帯）で分別回収・資源化のモデル事業を開始。昨年10月には地域を拡大し、現在約7,100世帯で実施中です。



1人あたり
5.7kg/年
を回収

対象地域拡大後の半年間では約36トンのプラスチックを回収しています。

一方、回収したごみの約17%がプラスチック以外の可燃ごみ等で、リチウムイオン電池が入ったままの小型家電など危険なものも。「分別方法が分かりにくい」との意見も多く、誰にでも分かりやすい周知と、あわせてリチウムイオン電池の回収拠点をふやすなどの対策も必要です。

他の自治体ではどうなっているの？

23区では、すでに12区が全域で実施、荒川を含めた5区がモデル実施中で、6区は未定とのこと。回収・資源化

★23区の実施状況は…

本格実施 12区	港、千代田、渋谷、北、目黒、豊島、江東、墨田、新宿、品川、中野、板橋
モデル実施 5区	荒川、足立、台東、文京、大田
未定 6区	中央、世田谷、杉並、練馬、葛飾、江戸川

にかかる費用負担と作業人員の不足で、人口が多く面積も広い区はなかなか実施に踏み出せないようです。

CO₂削減 製造者責任こそ必要

区の回収・資源化の経費は年間約5.7億円です

ですが、都の補助金は2026年度まで、国からは直接の補助金はなし。国・都の対策とプラスチックごみ抑制の生産者責任が求められます。プラに頼らない生活へ、大量生産、大量廃棄から抜け出す区、事業者、区民の協力も必要です。

回収後はどのように再利用されるの？

現在、区ではペットボトルと発泡スチロールトレイ以外のプラスチックは「燃えるごみ」として回収、サーマルリサイクル（熱回収）を実施しています。日本では廃プラ

スチックの約62%がサーマルリサイクルで処理されていますが、燃焼時のCO₂排出が問題となり、国も「プラスチック資源化を促進する法律」を制定。分別回収後は、荒川区もサーマルリサイクルではなく製品原料などへの資源化を実施します。



リサイクル方法別のCO₂削減効果

サーマルリサイクル（排熱利用）	1kgあたり0.73kg
マテリアルリサイクル（製品原料化）	1kgあたり1.65kg
ケミカルリサイクル（化学反応で分解）	1kgあたり2.11kg
RPF（固形燃料化）	1kgあたり2.97kg

資源化はサーマルリサイクルよりもCO₂削減効果が高く、区は「全域実施後のCO₂削減効果は年間約2,400トン」と想定。「実際に分別してみると燃えるごみの大半がプラごみでびっくり」でも回収が週1回なので「かさばるため保管場所がない」との声も。慣れないうちは面倒、保管場所などの課題もありますが、みなさんの理解も得ながら分別・資源化をすすめたい。

★回収後のリサイクル方法はどうか変わる？



お惣菜を買うことが多いのですが、お店側も紙製のトレイを使うなど意識することが必要では

こんな意見もあります

食品の容器や包装などは、どの程度洗えばいいかが分かりにくい

区の施設すべてに生理用品の設置を

日本共産党区議団は「生理の貧困」問題を取上げ、小中学校のトイレに生理用品を置くことが実現してきました。

さらに公共施設にトイレットペーパーが置いてあるように、どこでも当たり前トイレの個室に生理用品が設置することを求めています。

西武鉄道は池袋駅と所沢駅で9月20日より生理用品を常設。順次設置駅を拡大していく予定。日常の鉄道利用はもちろん、災害時や緊急時であっても利用者に寄り添ったサービスを提供する取り組みの一つとか。



アメリカで誕生した「Egal（イーガル）」は、トイレの各個室に設置するロール式の生理ナプキンがあります。

ロールタイプにした理由は、トイレットペーパーのように、それが必要とされているトイレの個室に常にあることを目指したからだと思います。ロール状になっているので「輸送時の梱包や重量が大幅に軽減される」という利点もあるそうです。様々な取組みから、区もぜひ検討して欲しいです。